

えどがわエコセンター中期計画 (2018年度～2022年度)



中期計画策定にあたり



- ◆ 2013-2017年度 中期計画では、区民・事業者・行政との連携のもと、「日本一のエコタウン」を目指して様々な活動を展開してきました。
- ◆ 地球温暖化の防止、資源循環、自然環境の保全、環境教育などその活動は多岐にわたり、2016年度の事業数は250件、参加者20,800人、もったいない運動登録参加者は延べ118,000人を超えています。
- ◆ 現在、えどがわエコセンターを取り巻く国内外の状況を見ると、気候変動をはじめとして環境問題は厳しさを増しています。2015年には国連で「持続可能な開発目標SDGs」が採択され、私たちの日々の暮らしにもグローバルな視点が求められています。
- ◆ こうした中、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催、葛西臨海地域でのラムサール条約登録に向けた新たな取組みも進んでいます。
- ◆ 今回、持続可能な地域社会を目指し、次世代に引き継ぐことのできる素晴らしい環境づくりをテーマに、2018-2022年度 中期計画を策定しました。

中期計画 目次

本文中の「※」を表示した用語については、巻末の資料編に解説を掲載しています。



I 中期計画の考え方

(1) 私たちのありたい姿	P 4	(3) 中期計画策定の背景	P 6
(2) 共育・協働の姿	P 5	(4) 前中期計画の振り返り	P 11

II 中期計画の取り組み

(1) 達成すべき目標	P 12	(2) 基本目標と主要施策	P 14
-------------	------	---------------	------

III 主要施策の推進

・地球温暖化防止の取り組み	P 15	・環境教育・人材育成の取り組み	P 31
・循環型社会づくりの取り組み	P 20	・もったいない運動(区民)の取り組み	P 36
・自然環境の保全の取り組み	P 25	・エコカンパニーえどがわの取り組み (江戸川区版環境マネジメント制度)	P 40

IV 中期計画の実現に向けて

(1) 活動基盤の整備	P 43	(3) 情報発信の充実	P 45
(2) 円滑な事業の推進	P 44		

V 資料編

(1) 中期計画と区計画の関係	P 47	(6) 区民世論調査 抜粋	P 56
(2) エコタウンえどがわ推進計画	P 49	(7) 江戸川区の人口推計	P 58
(3) 第2次エコタウンえどがわ推進計画の目標	P 50	(8) 策定委員会・策定経過	P 59
(4) Edogawaごみダイエットプラン	P 52	(9) 用語説明	P 61
(5) 地球温暖化の動向	P 53		

I 中期計画の考え方

(1) 私たちのありたい姿 — Edogawa Eco Center Vision



地球規模で考え、足元から行動します



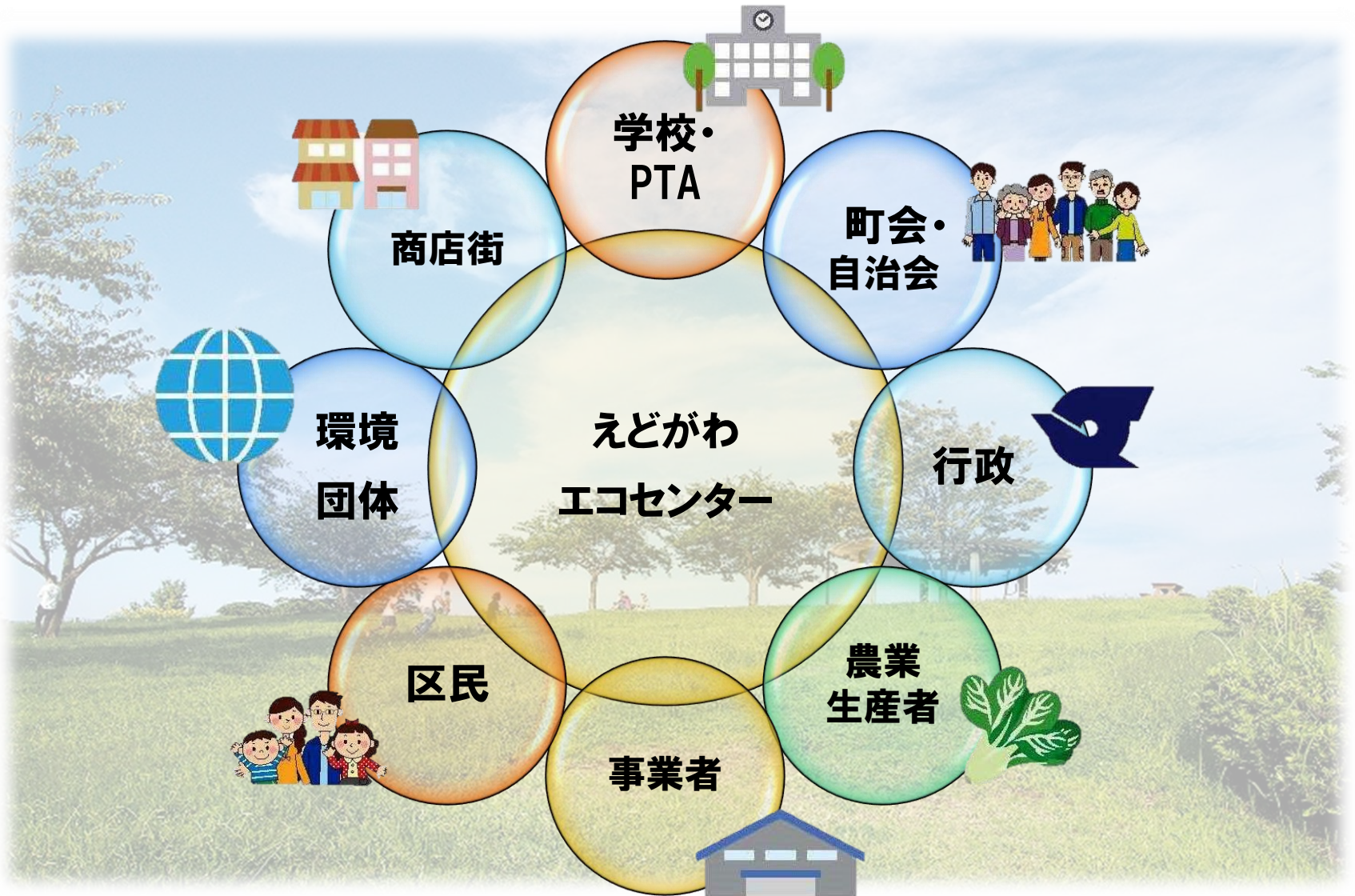
世代や立場を超えて多くの人々が、
環境に貢献する活動を繰り広げます



江戸川区を舞台に、すべての主体が
連携・協働します

I 中期計画の考え方

(2) 共育・協働の姿



I 中期計画の考え方

(3)中期計画策定の背景



地球温暖化の動向

国際気候変動に関する政府間パネル（IPCC）※第5次報告書より

《地球温暖化の現状》

温室効果ガス※の最大の要因である二酸化炭素濃度は、産業革命前1750年の280ppmから2013年には400ppmを超え、実に40%以上も増加している。

《気温／将来予測》

過去100年において世界平均気温が0.85℃上昇し、今世紀末までに0.3～4.8℃上昇する可能性が高い。

《海面水位／将来予測》

過去100年において世界平均水位は0.19m上昇し、今世紀末までに0.26～0.82m上昇する可能性が高い。

地球温暖化による将来のリスク

1 海面上昇 高潮 (沿岸、島しょ)	2 洪水 豪雨 (大都市)	3 インフラ 機能停止 (電気供給、医療などのサービス)
4 熱中症 (死亡、健康被害)	将来の 主要なリスク とは？ 複数の分野地域におよぶ 主要リスク 出典) IPCC第5次評価報告書 WGII	5 食糧不足 (食糧安全保障)
6 水不足 (飲料水、灌漑用水の不足)	7 海洋生態系 損失 (漁業への打撃)	8 陸上生態系 損失 (陸域及び内水の生態系損失)

出典) 全国地球温暖化防止活動推進センター
(JCCCA) ホームページ

I 中期計画の考え方

(3)中期計画策定の背景



世界の動向

パリ協定

- COP21における、2020年以降の気候変動対策の新たな国際的枠組み
- 世界の平均気温上昇を産業革命から2度未満、できれば1.5度に抑え、今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする。

持続可能な開発の目標 (SDGs※)

- 2015年、国連サミットで持続可能な世界への指標として17の目標、169のターゲットが採択された。
- この17の目標の中には、エネルギー、気候変動対策、循環型社会、生物多様性※など、環境に関する多くの内容が含まれている。

「持続可能な開発目標」における17の目標



出典) 国際連合広報センターホームページ

I 中期計画の考え方

(3)中期計画策定の背景



国内の動向

地球温暖化

政府

パリ協定を受け、我が国は温室効果ガスを2050年までに80%の排出削減を目標とする。中期的には、2030年度までに、2013年度比で排出量を26%削減することを目標とした。

東京都

2030年度までに温室効果ガス排出量を2000年度比で30%の削減をする目標

- 産業・業務部門及び家庭部門において20%程度削減
- 運輸部門において60%程度削減

生物多様性

- 2012年「生物多様性国家戦略2012－2020」閣議決定
- 東日本大震災の経験や生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性を踏まえ、自然共生社会を実現するための理念として、「自然のしくみを基礎とする真に豊かな社会をつくる」ことを掲げた。

廃棄物

- 日本では年間、2,775万トンもの食品が廃棄されている。そのうち家庭からの食品廃棄は822万トンに及んだ。
- 政府の第3次食育基本計画では、食品ロス※認知度や削減に取り組む人の割合を平成32年度までに80%以上を目標としている。



I 中期計画の考え方

(3) 中期計画策定の背景



江戸川区の動向①

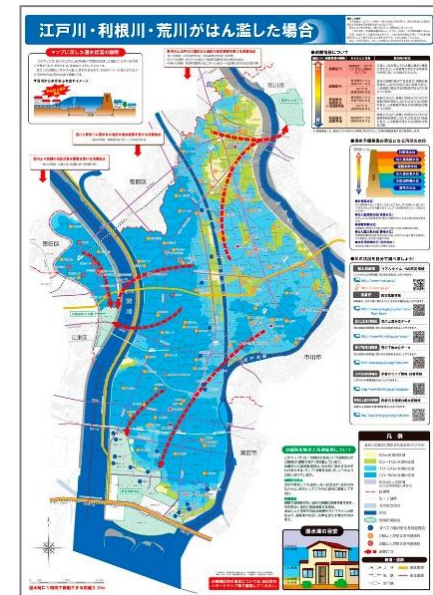
エコタウンえどがわ 推進計画

- 2008年度から2012年度までの第一次目標である、エネルギー起源二酸化炭素※を年平均で16万トンの削減を達成した。
- 2017年度までの第2次目標である、年平均34万トンの削減に向け、削減傾向を維持している。
- 2018年度からの新たな計画では、2030年度までに温室効果ガス排出量の40%削減を目標としている。

温暖化と自然災害 への備え

- 近年、地球温暖化の影響により、想定を上回る巨大台風や集中豪雨が多発している。
- 海抜ゼロメートル地帯に位置する江戸川区は、河川の氾濫や高潮などによる大規模な水害が発生する危険性がある。

洪水ハザードマップ



出典) 江戸川区ホームページ



出典) 広報えどがわ (江戸川区)

I 中期計画の考え方

(3)中期計画策定の背景



江戸川区の動向②

2020年オリンピック・パラリンピック

オリンピック・パラリンピックをきっかけとして区民が誇りを持ち、訪れる人々が憧れる江戸川区を目指す。

エコセンターの取り組み

- 環境負荷の低減
- 自然環境の保全
- 人材育成
- 日本一のエコタウンの実現

ラムサール条約※

- 葛西沖一帯は、日本有数の野鳥の飛来地として、また都会のオアシスとして区内外の人々に親しまれている。
- 将来にわたって、その湿地環境を保全し、ワイズユース※を進めるため、国際的枠組みであるラムサール条約の登録を目指している。



東京オリンピック・カヌー会場予定地
(葛西臨海公園周辺)

出典) 江戸川区



スズガモの様子
撮影) 鈴木弘行

I 中期計画の考え方

(4)前中期計画の振り返り(計画期間2013～2017年度)



2006年度

- もったいない運動参加者数
10,000人
- 会員数
204名
- 事業数
136件
- 事業参加者数
4,522人
- ^(注1)ece登録事業所数
11事業所
- 環境教育出前授業
4校 (200人/年)
- 人材育成
141人 (延べ450人)

2013年度

- もったいない運動参加者数
95,330人
- 会員数
252名
- 事業数
214件
- 事業参加者数
15,796人
- ece登録事業所数
221事業所
- 環境教育出前授業
2校 (121人/年)
- 人材育成
299人 (延べ2,545人)

2017年度

- もったいない運動参加者数
125,984人
- 会員数
449名
- 事業数
255件
- 事業参加者数
20,419人
- ece登録事業所数
404事業所
- 環境教育出前授業
17校 (3,225人/年)
- 人材育成
255人 (延べ4,169人)

(注1) ece・・・エコカンパニーえどがわ
(江戸川区版環境マネジメント制度)

Ⅱ 中期計画の取り組み

(1)達成すべき目標



計画期間

- 2018年度～2022年度の5年間

基本目標

- 地球温暖化を防止するため、温室効果ガス排出の少ない低炭素社会づくりを進めます。
- 区民・事業者・行政との連携・協働のもと、もったいない運動をさらに広げていきます。
- 持続可能な地域社会を目指し、次世代に引き継ぐことのできる環境づくりを進めます。

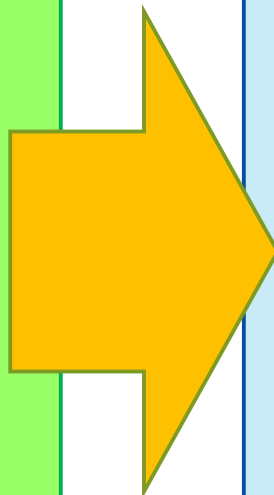
Ⅱ 中期計画の取り組み

(1)達成すべき目標 「次の5年間で目指す目標」



2017年度

- もったいない運動参加者数
125,984人
- 会員数
449名
- 事業数
255件
- 事業参加者数
20,419人
- ece登録事業所数
404事業所
- 環境教育出前授業
17校 (3,225人/年)
- 人材育成
255人 (延べ4,169人)



2022年度

- もったいない運動参加者数
147,000人
- 会員数
500名
- 事業数
260件
- 事業参加者数
21,000人
- ece登録事業所数
500事業所
- 環境教育出前授業
20校 (2,700人/年)
- 人材育成
300人 (延べ5,000人)
- ◆ 湿地保全の国際条約であるラムサール条約
の登録や生物多様性の保全活動

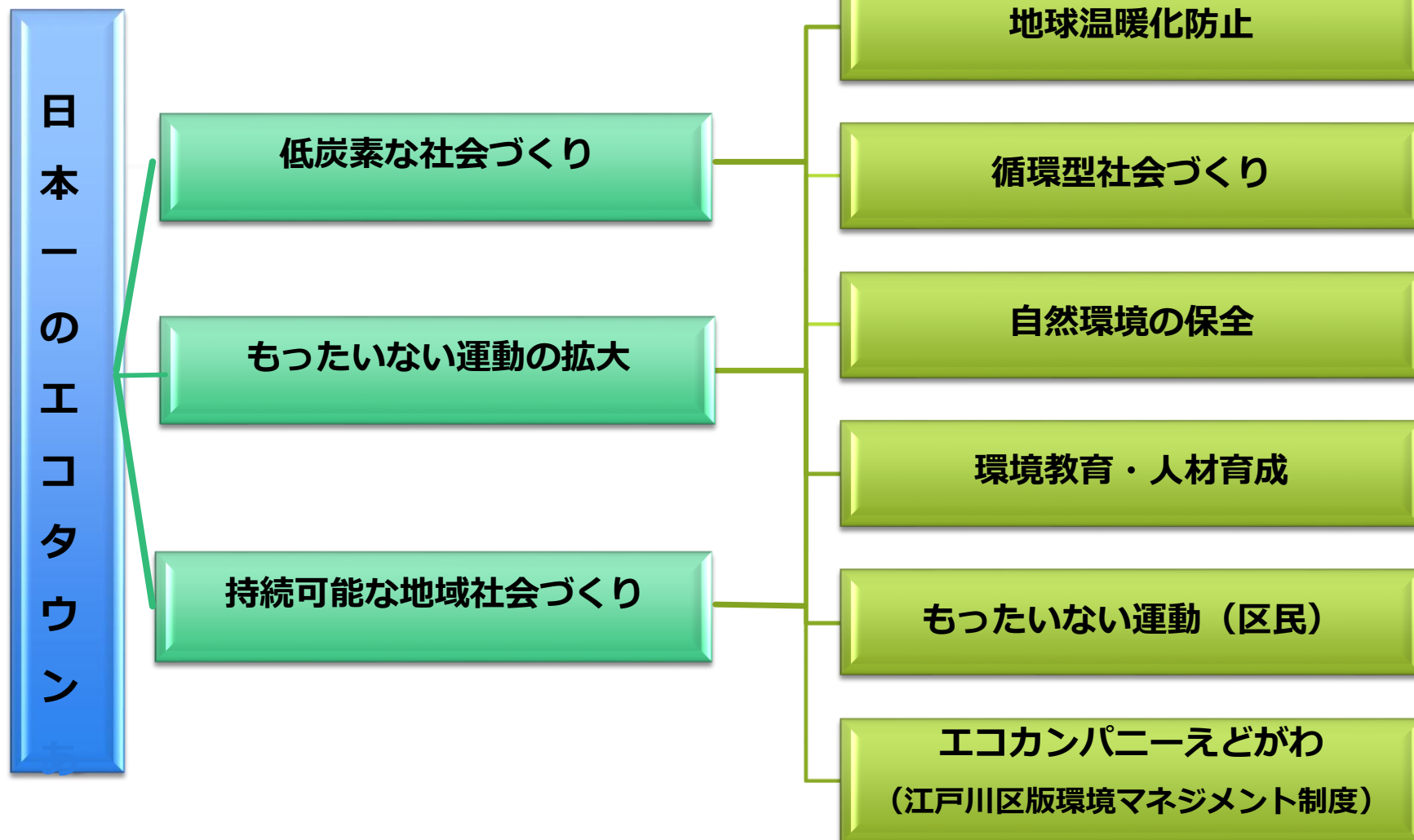
Ⅱ 中期計画の取り組み

(2)基本目標と主要施策



基本目標

主要施策



Ⅲ 主要施策の推進

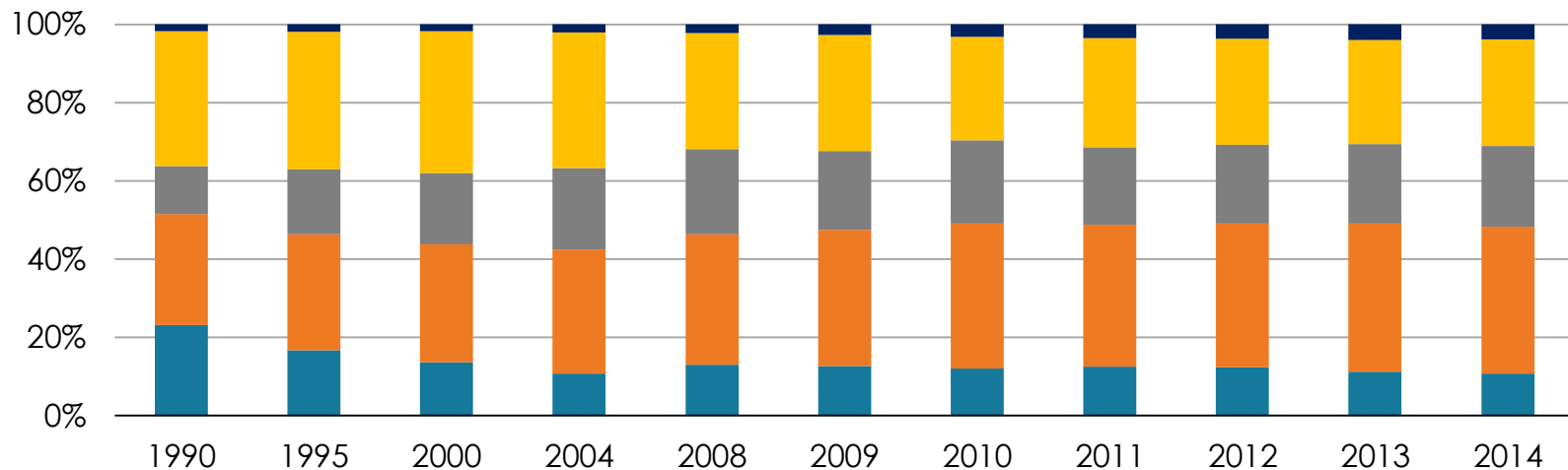
地球温暖化防止の取り組み



重点課題

- 江戸川区の2014年度までの二酸化炭素の部門別排出量を見ると、民生家庭部門、民生業務部門が増加傾向である。
- 東日本大震災から6年が経つが、再生可能エネルギーの導入が進んでいない傾向にある。
- 地球温暖化が自然災害に与える影響を、各事業を通じて区民に周知する必要がある。
- 区民世論調査によると、なんらかの省エネ・省資源を意識した取り組みを区民の約8割が行っているが、さらなる省エネ行動が求められている。

区内の二酸化炭素排出量の部門別内訳の推移



Ⅲ 主要施策の推進

地球温暖化防止の取り組み



取り組み目標

温室効果ガス排出量の少ない低炭素社会づくりの推進

省エネ・節電の取り組みに関する普及啓発

再生可能エネルギーの導入や環境負荷の小さい乗り物の利用促進

もったいないの心とクールチョイス※で一歩進んだ省エネ生活の実現

環境行動に対し、区民や事業者へフィードバックできる仕組みづくり



再生可能エネルギー



省エネ・節電



環境負荷の少ない乗り物

Ⅲ 主要施策の推進

地球温暖化防止の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
エコライフ講習会	協力企業と連携し太陽光発電、エコキュート、蓄電池など高効率なエネルギーの活用で省資源・省エネライフを提案します。区民向けに加え学校、公共施設、エコカンパニーなどへ拡げます。	実施	実施	実施
みどりのカーテン	みどりのカーテンづくりにより、室内の温度を下げエアコンの使用を抑えることで、省エネを進めます。家庭の他、学校、公共施設、企業などへ展開していきます。地域ごとにリピーターの中からリーダーを育成し、フォロー体制を充実させます。	500人	600人	600人
省エネナビで節電	次世代環境育成事業として、家電製品の消費電力を継続的に測定できる省エネナビを使用して、節電活動を行うことで効果を確認し、省エネ意識を高めます。	実施	実施	実施
楽ちん美味しいクッキング （省エネクッキング）	季節に合った食材を無駄なく使い、美味しい省エネクッキングを広めます。	年8回 160人	年10回 200人	年10回 200人
家庭の省エネ診断	家庭のエネルギー消費実態を把握し、省エネのヒントをつかみます。その効果を区民に対し、家庭の省エネ情報として提供します。	年4回	年4回	年4回

Ⅲ 主要施策の推進

地球温暖化防止の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
ダンボールクッキング	ダンボールを使用して木炭を熱源とするオーブンを作ります。資源の再利用・自然エネルギーの扱い方とその効果を体験します。	実施	実施	実施
ふしぎ発見バスツアー	様々な団体と連携し、自然保護やエネルギーについて活動する地域をバスで訪問します。参加者に環境問題への理解と未来に向けた行動について考えてもらいます。	実施	実施	実施
キャンドルナイト	キャンドルの灯の中で過ごすことで、必要以上の照明の中で暮らす生活を見直し、省エネをはじめとするエネルギー問題を共有する機会をつくります。	実施	実施	実施
事業所向け 地球温暖化防止普及啓発活動	事業所（エコカンパニー）をターゲットに、省エネや節電に関する講演会の実施や事業所の取組みの紹介などを通じて、地球温暖化防止に関する普及啓発活動を行います。	実施	実施	実施
地球環境に負荷をかけない 交通利用の普及啓発活動	カーシェアリングやレンタサイクルの普及、子ども向け自転車教室（キッズライド）など地球環境への負担をかけない交通機関や、自転車の利用について普及啓発活動を行います。	実施	実施	実施
節電強化月間キャンペーン	電気使用量が増える夏場（7～8月）や冬場（12～2月）の時期に、クールシェア※やウォームシェア※と称して節電や省エネのイベント実施について検討します。	検討	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

地球温暖化防止の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
オールド冷蔵庫コンテスト	家庭で長期間利用中の古い冷蔵庫をエントリーしてもらい、最も古い冷蔵庫をエントリーした家庭には、そのもったいない精神を表彰します。	検討	実施	実施
手作りソーラークッカーとソーラークッキング	身近な材料で携帯ソーラークッカーを作成し、太陽熱で調理ができることを知ってもらいます。災害時に限らず、日常的に活用することで省エネができることを伝えていきます。	実施	実施	実施
カーボンオフセット※の仕組みづくり	区民や事業者の温室効果ガス削減に向けた環境行動が、促進するような仕組みを研究します。	研究	研究	実施検討
低炭素社会づくりの情報発信	法人、事業主（エコカンパニーエドがわなど）に対し、国や東京都が発表する低炭素社会づくりに関する補助金や税制優遇制度などの情報を提供します。	実施	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

循環型社会づくりの取り組み



重点課題

- 区と連携して、ごみの減量・分別に関し、地域全体への周知を一層図っていくことが必要である。
- 3R※の中でも特に、リデュースの取り組みを推進することで、消費者の意識改革が必要である。
- 江戸川区の食品ロスは年間17,000トンに及ぶと推計されている。
- SDGsの開発目標や我が国の第3次食育基本計画でも食品ロスの削減は大きな目標となっている。
- プラスチックの海洋汚染の実態とごみ減量を広く周知する必要がある。

「食品ロスの現状」



出典) 江戸川区ホームページ

Ⅲ 主要施策の推進

循環型社会づくりの取り組み



取り組み目標

3Rや循環型社会への関心を高めていくための事業展開

ごみを出さない（リデュース）入口対策の充実

小中学校における3Rの取り組みの推進

食品ロス削減など江戸川区と連携した事業の推進

プラスチックごみ減量を目指し、マイバッグ運動の拡大



循環型社会



最終処分場



マイバッグキャンペーン

Ⅲ 主要施策の推進

循環型社会づくりの取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
循環型社会への啓発	江戸川区や環境よくする地区協議会と連携し、清掃工場、最終処分場の見学をはじめ、地域イベントなどあらゆる機会を通じてごみの減量を広めていきます。	検討	実施	実施
3Rの意識改革	3Rの中でもリデュースの取り組みを推進するため、情報紙・ホームページをはじめ、大型スーパーなどを活用し、繰り返し区民に情報提供を行っていきます。	実施	実施	実施
プラスチックの海洋汚染シンポジウム	講演やパネルディスカッションによって、マイクロプラスチック※の海洋汚染を止めるための方策について考えます。	実施	実施	実施
マイバッグキャンペーン	レジ袋を使わずマイバッグを活用することで、ごみの減量を目指します。環境月間や3R推進月間を中心にキャンペーンを行います。	実施	実施	実施
マイボトル運動	マイボトルを常時携帯することでCO ₂ とプラスチックごみの削減につながります。	実施	実施	実施
食品ロス削減	各地域まつり、イベントにおいて江戸川区と連携しながら、フードドライブ※として未利用食品の回収を行います。	実施	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

循環型社会づくりの取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
おもちゃの病院	壊れていても思い出があって捨てられないおもちゃを無料で修理し、幼いころからものを大切にする心を伝えています。	年12回	年12回	年12回
エコバッグ作り教室	不要になった新聞紙や包装紙を使って紙製のバッグを作ります。新聞紙には防臭・防湿効果など優れた面が多くあります。	年2回 80人	年2回 80人	年2回 80人
布ぞうり講習会 マイ座布団作り講習会	家庭や布団屋さんで不要になった布を利用して、健康に良い布ぞうりを作る講習会です。また、不要になった布団を座布団に加工し、再利用します。	年11回 300人	年11回 300人	年11回 300人
防災頭巾作り教室	不要になったタオルなど身近なものを使って、防災グッズを作ります。	年2回 80人	年2回 80人	年2回 80人
綿布団の打ち直し	打ち直しされない化繊わたの布団は粗大ごみとして焼却されCO ₂ の放出を増大させています。座布団作り講習会では、打ち直しで綿布団の再利用を普及させます。	実施	実施	実施
エコ工作教室	新聞紙で作るコサージュ教室や牛乳パックでつくる万華鏡、ペットボトルでつくる風車、ビンでつくる小物たて、CDやペットボトルでエコ・コマなどをつくりま	年5回 350人	年5回 350人	年5回 350人

Ⅲ 主要施策の推進

循環型社会づくりの取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
エコ裁縫教室	残り布で作るお手玉や刺し子コースター、マイバッグ、クリスマスミニリース、ミニ巾着などを作ります。	年8回 450人	年8回 450人	年8回 450人
マイ箸包み作り教室	使い捨ての割り箸を使わずに、「マイ箸」を普段持ち歩く時に使う箸袋を作ります。	年2回 90人	年2回 100人	年2回 100人
循環型ガーデニング収穫祭	生ごみと自然動物園の動物の糞を肥料にハーブを育て、収穫祭を通じて循環型社会への理解を深めていきます。	実施	実施	実施
生ごみリサイクル講習会	家庭ごみの4割を占める生ごみを堆肥化し、ごみの減量や有効活用をしていきます。	年4回 60人	年4回 60人	年4回 60人
小中学校出前授業	出前授業プログラムの中の3R関連のメニューを充実させ、生ごみ堆肥や江戸川区清掃課との連携した内容も検討していきます。	検討	実施	実施
学校菜園を利用した生ごみ堆肥化づくり	学校給食における野菜くずや食べ残しなどを学校菜園や花壇を使って生ごみ堆肥作りを行います。花や野菜を育てる活動を通じ、食物の生産や自然界の循環を実体験してもらいます。	検討	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

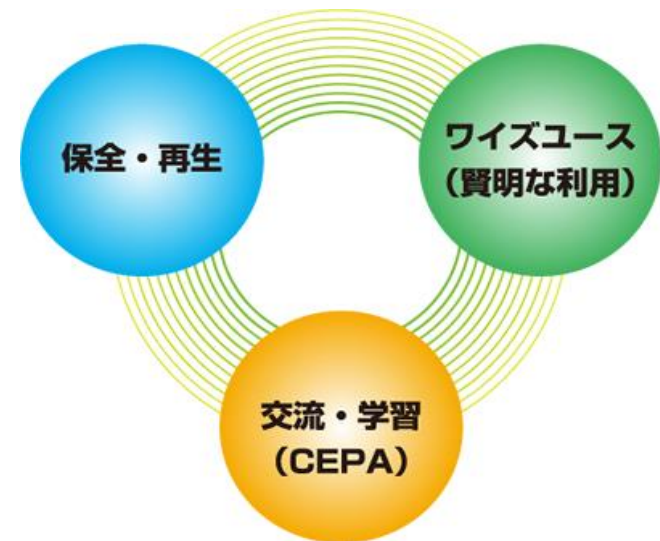
自然環境の保全の取り組み



重点課題

- 持続可能な地域社会を目指し、将来に渡って江戸川区の自然環境の保全が継続される取り組みが求められている。
- ラムサール条約の登録に向け、関係機関や地域との連携が必要である。
- ラムサール条約の登録後、ワイズユースの視点から生物多様性の取り組みが求められている。
- 水辺環境調査によるデータの蓄積とその活用が必要である。
- 生物多様性に関する環境教育の充実が重要である。

ラムサール条約の3つの柱



出典) 環境省ホームページ

Ⅲ 主要施策の推進

自然環境の保全の取り組み



取り組み目標

多くの区民が自然環境や生物多様性について、関心を高める取り組みの充実

ラムサール条約登録後、地元関係者と連携した環境保全とワイズユースの推進

自然と触れ合うことのできるフィールドや環境保全の確保

水辺環境調査のデータの活用

地域環境を次世代へ引き継ぐための環境教育の推進



自然環境の保全



ラムサール条約



水辺環境調査

Ⅲ 主要施策の推進

自然環境の保全の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
水辺環境調査 モニタリング調査 （区受託事業）	荒川、江戸川、新中川、葛西沖を調査し野鳥、植物、魚類、底生生物に関する基礎データを収集し、公開しています。また、データを活用しパンフレットの作成や情報紙などで生物多様性の保全の大切さを伝えていきます。	実施	実施	実施
東なぎさクリーン作戦	東なぎさに打ち上げられたごみを収集して環境保全活動を体験するとともに、野鳥・植物などを観察し、自然の豊かさを感じます。	年2回 150人	年2回 150人	年2回 150人
ラムサール条約登録シンポジウム	葛西臨海地区のラムサール条約登録に向け、保全活動やワイズユースの考え方を広く区民へ周知します。	実施検討		
葛西臨海地区のワイズユース	ラムサール条約登録後に、行政・区民・環境団体が連携し、湿地の賢明な利用に向けた活動を持続的に実施します。	検討	実施	実施
葛西臨海部自然体験ツアー（仮称）	東京湾に残された希少な湿地である葛西臨海部を船から観察します。	検討	実施	実施
ムジナモを育てよう！	絶滅危惧種※のムジナモの栽培者を募り里親活動を行うことで、自然環境の大切さを伝えていきます。	年4回	年4回	年4回

Ⅲ 主要施策の推進

自然環境の保全の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
荒川五色池で自然体験活動	竹やクズのツルを使い竹鉄砲などの手作りおもちゃで遊び、池に生息するカニやザリガニを捕まえて自然体験を行います。	年 1 回	年 1 回	年 1 回
クズのつる外しとクリスマスリース作り	葛西臨海公園でのクズの刈取り体験とクズなどを利用してクリスマスやお正月のリースを作ることで、自然に親しみます。	年 1 回	年 1 回	年 1 回
楽しいマダケ切りと水鉄砲作り	葛西臨海公園でのマダケ切り作業の体験を通じて自然環境保護を実感してもらい、合わせて水鉄砲を作って楽しめます。	年 1 回	年 1 回	年 1 回
竹とんぼ教室	間伐材のマダケを使い、竹とんぼを作ります。	年 1 回	年 1 回	年 1 回
自然素材で作るスダレ編み講習会	オギなどの乾燥させた茎を使い30センチ四方のスダレを編みます。クズのツルでリースも作ります。	年 1 回	年 1 回	年 1 回
荒川中土手でバッタや鳴く虫を探そう	子どもたちに虫とりを体験してもらい、虫の解説・鳴く虫の飼い方などを教えます。	年 1 回	年 1 回	年 1 回

Ⅲ 主要施策の推進

自然環境の保全の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
樹と友達になろう	樹木医を講師に、公園の樹木を観察します。また、草花、鳥、昆虫さらには自然の成り立ちや気候との関係を学びます。	年2回	年2回	年2回
昆虫・クモ観察会	葛西臨海公園において、家族で昆虫とふれあいながら自然界での連鎖さを学びます。また、全員でクモを探し、クモに触れながら自然界の連鎖を知り楽しんでもらいます。	年1回	年1回	年1回
親子のための 「池の水質と水生生物調べ」	葛西臨海公園・鳥類園をフィールドに親子で池の水質や水生生物を調査し、自然環境の保全への理解を深めます。	年1回	年1回	年1回
野鳥ゆったりウォッチング	葛西臨海公園・鳥類園に渡ってきた冬鳥を中心にじっくり観察することで、自然体験と江戸川区の自然の豊かさを感じます。	年1回	年1回	年1回
和船に乗って新川を知ろう！ 体験教室	新川さくら館を会場にし、新川について、歴史、河川の構造、水質、生物などの様々な視点から総合的に楽しみながら子どもたちに知ってもらいます。	年1回	年1回	年1回
小松川自然地里川プロジェクト 「バッタと仲良し」	河川敷の草原に生息するバッタやキリギリスを探し子どもたちが捕まえます。自分たちと自然環境とのつながりを感じてもらいます。	年1回	年1回	年1回

Ⅲ 主要施策の推進

自然環境の保全の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
荒川で魚とり＆カニさがし	荒川の干潟や草地で、魚とりやカニさがしを通じて自然の楽しさを体験します。	年1回	年1回	年1回
荒川でEボートに乗ろう！	荒川でEボートの乗船を通し、川の自然を体験しながら川での安全な遊び方を学びます。	年1回	年1回	年1回
チャレンジデー自然観察会	自治体対抗イベント「チャレンジデー」で、葛西臨海公園自然観察会を実施します。野鳥・植物の観察と解説を聞きながら公園を散策します。	年1回	年1回	年1回
一之江境川親水公園自然観察会と打ち水	夏休みの子どもイベントとして、一之江境川親水公園の生きもの観察をします。合わせて、打ち水により温暖化防止の体験します。	年1回	年1回	年1回
法政大学との連携事業	法政大学の学生と連携し、若者の視点で大人から子どもまで参加できるイベントにより生物多様性の理解を深めます。	実施	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

環境教育・人材育成の取り組み



重点課題

【環境教育】

- 出前授業、すくすくスクール放課後環境教育の実績が拡大するなか、講師やスタッフが不足している。
- 環境教育の多様化に対応するため、プランナー※、コーディネーター※など専門性を持つ人材の育成・発掘が必要である。
- 多様な出前授業の要望に合わせた環境教育及びESD※、SDGsの体系化したプログラムの開発が必要である。



出前授業

【人材育成】

- 「おきがる環境講座」の中で、特にリーダー養成講座の受講者が減少傾向にある。
- 地球環境問題、生物多様性、資源循環など多くの問題への区民の理解が十分には浸透していない。
- 省エネ機器の導入や再生エネルギー利用など実践の取り組みを広めていく必要がある。



おきがる環境講座

Ⅲ 主要施策の推進

環境教育・人材育成の取り組み



取り組み目標（環境教育）

小中学校の環境教育を推進するための、環境教育実施団体との連携及び講師やスタッフの育成

環境教育の多様化に対応するための、より実践力や専門性を持った人材の育成・発掘

ESD、SDGsを含む環境教育プログラムを充実させ、学校のニーズに合った出前授業の展開

取り組み目標（人材育成）

講座・講習会において、区民の関心が高い、魅力あるプログラムの開発

「エコタウンエドがわ」を実現するためのリーダー的存在となる人材の育成

町会・自治会や各種団体との連携の強化

Ⅲ 主要施策の推進

環境教育・人材育成の取り組み



環境教育

事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
子ども放課後環境学習教育	環境省作成の環境学習プログラムキットを活用し、すすくすくスクールなどで実施します。	20回 /600人	20回 /600人	20回 /600人
グリーンプラン推進校の 拡充・支援	幼稚園・小・中学校の環境学習推進モデル校を拡大するとともに活動の支援を行います。（毎年10校程度指定）	132校 累計	142校 累計	152校 累計
こどもエコクラブの活動支援	グリーンプラン推進校を対象に、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・環境学習を行うことを支援していきます。	実施	実施	実施
出前授業	学校向けの環境プログラムを総合学習の時間やPTAの活動などで、「出前授業」として提供していきます。	20回 /2,700 人	20回 /2,700 人	20回 /2,700 人
出前授業プログラムの開発	学校出前授業・すすくすくスクール放課後環境教室プログラムの充実のため、環境教育プログラムの開発をします。また、他教科と組み合わせたプログラムの提案や東京オリンピック・パラリンピックに関連したプログラムを開発します。	検討	実施	実施
町会・自治会、商店街、小中学校 との協働授業（事業）	地域や商店街、学校をエコセンターがつなぎ、協働授業（事業）を通じて地域の絆を深めます。	検討	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

環境教育・人材育成の取り組み



環境教育

事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
環境教育における 専門家の育成・発掘	環境教育におけるプランナー・コーディネーターなどを育成するためのプログラム等の検討をします。また、ESDを支援できる人材の育成・発掘します。	検討	実施	実施
出前授業・すくすくスクール放課後 環境教育における人材の発掘	学校関係OBや自然環境学習授業の実績のある団体を発掘します。また、合わせてプログラムに対応するスタッフを育成していきます。	検討	実施	実施
ESD、SDGsの学習プログラム開発	ESD、SDGs学習プログラム開発委員会を設置し、新たなプログラムを開発し、出前授業のプログラムに追加します。	検討	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

環境教育・人材育成の取り組み



人材育成

事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
おきがる環境講座（区受託事業）	環境を学びたい人、活動したい人を対象に基礎から実践まで学ぶことのできる講座を実施します。	実施	実施	実施
環境学習出前講座	地球温暖化や資源循環など環境に関する課題について、地域に出向き啓発を行います。 ※依頼事業として実施	実施	実施	実施
もったいない運動井戸端会議	箸袋、キャンドル、ふろしき包みなど実技と講座を組み合わせ、身近な暮らしの「もったいない」を楽しく情報交換する場です。 ※依頼事業として実施	実施	実施	実施
環境講演会	エコセンター会員や区民を対象に、著名人による講演会を開催し、広く環境に関する啓発を行います。	1回 /100人	1回 /100人	1回 /100人
環境学習プログラムの充実	地球温暖化、資源循環、自然保全など環境に関する様々なテーマについて、学習プログラムを充実していきます。また、一般向けの出前講座プログラムメニュー冊子の作成や図書館への配布をします。	実施	実施	実施
専門家の育成・発掘	アドバイザーやプランナーなど、地球温暖化や生物多様性等の専門家の育成や発掘をします。また、外部機関との連携やネットワークを充実していきます。	検討	実施	実施

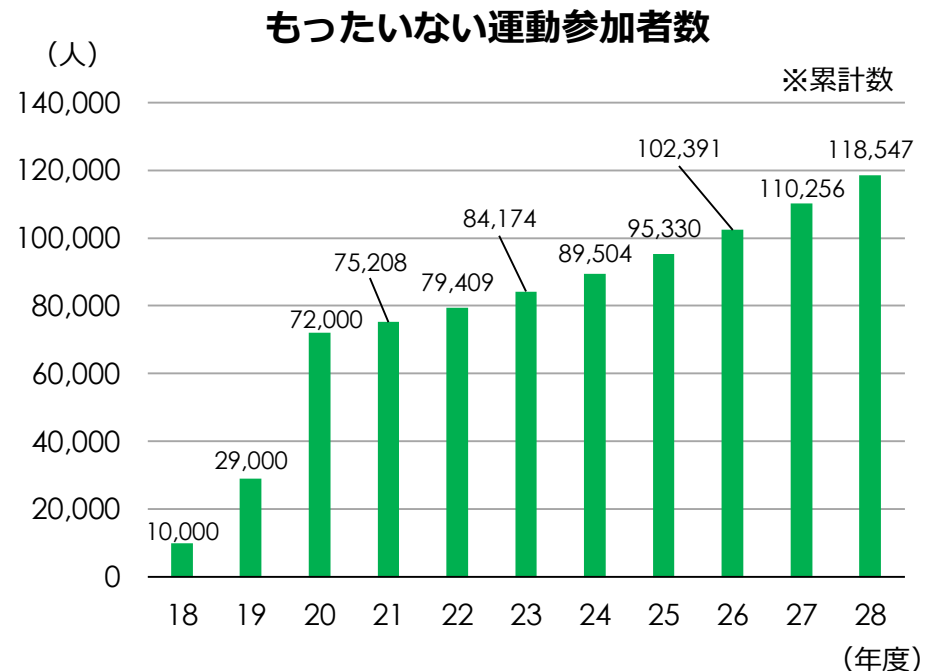
Ⅲ 主要施策の推進

もったいない運動(区民)の取り組み



重点課題

- もったいない運動の認知度をさらに高め、在住外国人を含む運動の参加者を増やしていく必要がある。
- もったいない運動の実践部隊であるもりあげ隊の活動の場や機会が限定されている。
- 若い世代や中年層の参加意識が他の世代に比べて低い。
- 地球温暖化やエネルギー、資源循環など様々な課題に対し、日々の行動を見直していく必要である。
- 省エネ住宅・省エネ家電、カーシェアリングなど、一歩先のライフスタイルの提案が重要である。



Ⅲ 主要施策の推進

もったいない運動(区民)の取り組み



取り組み目標

環境に配慮した暮らし・取り組みを地域全体に展開（拡大）

もりあげ隊を広報活動部隊と位置づけ、活動内容を拡充

若い世代の参加が進むよう取り組み内容の充実

江戸川区や環境をよくする地区協議会と連携した資源循環の新たな取り組みの推進

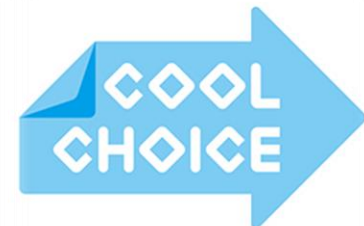
一歩先のライフスタイルやクールチョイスなど、日常で実践できる行動の提案



環境フェア



地域イベントでのPR



未来のために、いま選ぼう。

クールチョイス

Ⅲ 主要施策の推進

もったいない運動(区民)の取り組み



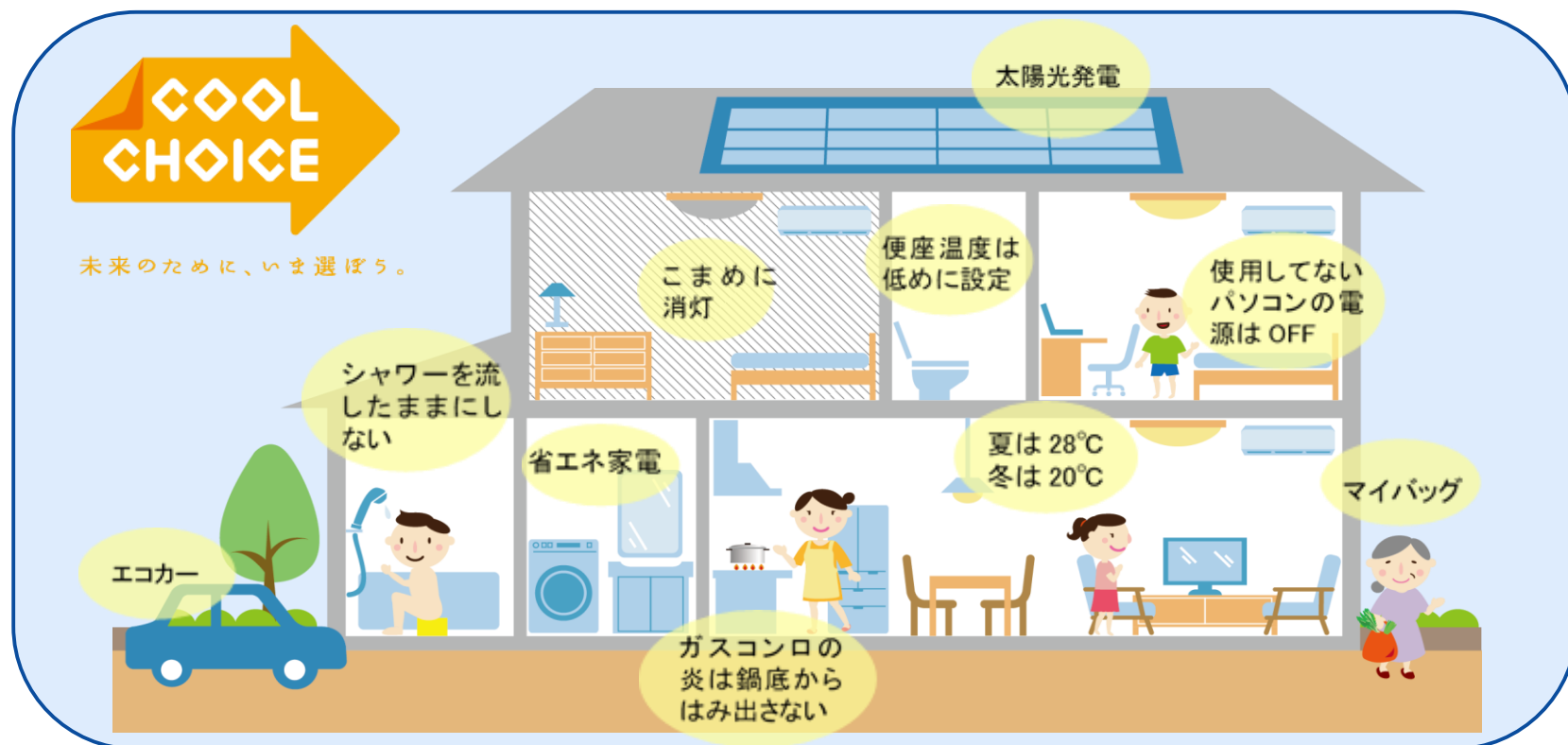
事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
もったいない運動えどがわ 参加者の拡大	普及啓発の中身や活動内容を充実することで、もったいない運動えどがわに参加する区民や事業者をさらに増やしていきます。	133,000 人	140,000 人	147,000 人
環境フェア・区民大会の開催	環境フェアでは区と連携し、来て、見て、参加して、楽しいイベントにしていきます。区民大会では、日頃の活動発表と表彰を行います。	実施	実施	実施
商店（街）やスーパーの エコ活動支援	商店街との連携により、イベントやエコ活動推進への支援を行います。 ※江戸川区地域連携協定事業を活用して、イオン葛西店での出展イベントを積極的に実施します。	実施	実施	実施
区民まつり・地域まつりなど への参加	区民まつり、地域まつり、産業ときめきフェアなどを通じて、もったいない運動やエコセンターのPRを行っています。	実施	実施	実施
「もったいない運動えどがわ」 モデル地区設置	町会・自治会、商店街や学校などの、モデル地区を指定し、「ごみ減量」や「省エネ」などの取り組みテーマでモデル事業を実施します。	検討	実施	実施
もりあげ隊による啓発活動	地域イベントでのフードドライブやみどりのカーテンをはじめ、もったいない運動全般にわたり区民への啓発活動を進めていきます。	実施	実施	実施

Ⅲ 主要施策の推進

もったいない運動(区民)の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
もりあげ隊交流会	もったいない運動の最前線で活動している会員同士の交流を深めるとともに委員会と連携し、活動を活性化していきます。	実施	実施	実施
一歩先のライフスタイルの提案	一歩先のライフスタイルやクールチョイスなど、日常で実践できる行動をホームページや情報紙で提案していきます。	実施	実施	実施



Ⅲ 主要施策の推進

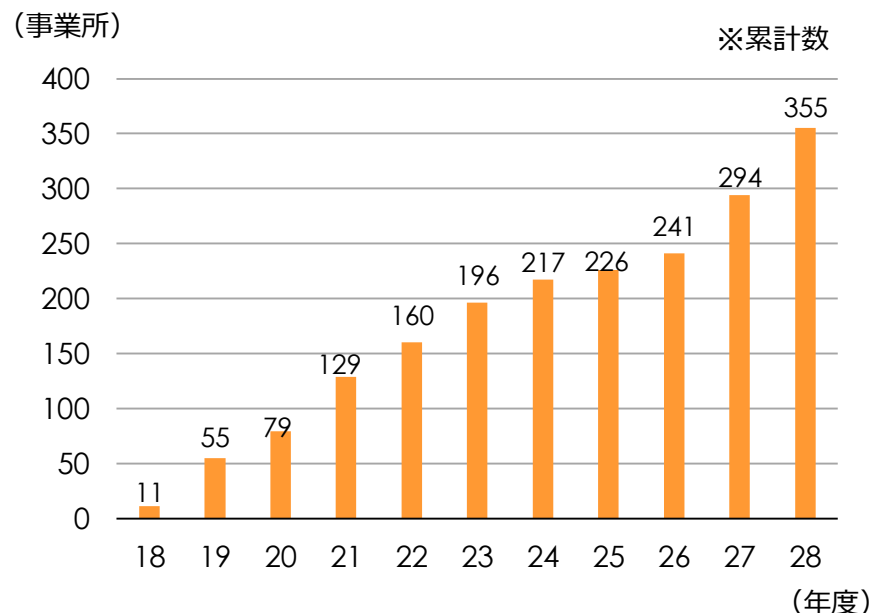
エコカンパニーえどがわ(江戸川区版環境マネジメント)の取り組み



重点課題

- 登録事業所の拡大及び環境経営のさらなる充実が必要である。
- 登録事業所の具体的な活動状況の把握が十分できていない。
- 事業所としてエネルギーや温室効果ガスの削減目標を定め、見える化を進めていくことが大切である。
- 登録事業所への情報提供の充実、相談窓口の整備が必要である。
- 登録後の環境経営を継続させていくための仕組みづくりが求められている。

エコカンパニーえどがわ登録事業所数



Ⅲ 主要施策の推進

エコカンパニーえどがわ(江戸川区版環境マネジメント)の取り組み



取り組み目標

エコカンパニーのさらなる周知による登録事業所の拡大

事業者による自主的な温暖化対策の一層の推進

登録後の環境経営を充実していくためのレポート報告の徹底

環境経営が継続されるよう、江戸川区と連携した事業所へのバックアップ

事業者インセンティブが働くための仕組みづくり



エコカンパニーの登録



太陽光発電の設置



省エネ・節電への取り組み

Ⅲ 主要施策の推進

エコカンパニーえどがわ(江戸川区版環境マネジメント)の取り組み



事業名	概要	実施時期（目標）		
		2018	2020	2022
登録事業所の加入促進	登録事業所への制度や仕組みとメリットをより周知し、金融機関向け説明会を実施します。関係団体の会報・ホームページで紹介します。	検討	実施	実施
登録後のフォロー対策	産業振興課と連携し、レポート提出のチェック体制を徹底します。登録事業所の環境経営の実態調査を行い、活動状況をデータベース化していきます。	検討	実施	実施
区内事業者団体との連携	商工会議所とのエコ検定連携など、法人会、商店街連合会等関係団体との情報交換や連携を強化します。	実施	実施	実施
登録後のインセンティブが働く仕組み	優良事業所を表彰するための制度を充実します。また、エコセンターに限らず、商工会議所などでも紹介できるように連携していきます。	検討	実施	実施
情報提供の充実	先進技術や国・都の助成金など、企業に有益な情報を提供します。	実施	実施	実施
情報連絡会	行政・審査委員・事務局の連携や情報を共有します。	検討	実施	実施

Ⅳ 新中期計画の実現に向けて

(1)活動基盤の整備



常任委員会の活性化

- 事業を進める中心の5委員会（注2）の活性化
- PDCA※による事業実施
- 委員会活動の透明性の向上
- 連携の強化（会員・理事・行政・事務局）



財政基盤の強化

- 区補助金の効率的な運用
- 受託事業の拡大
- 事業収入の確保
- 各種助成金の獲得
- 協賛金（寄付金）の確保
- 会費収入の確保

信頼性の向上

- 監事による会計監査及び業務監査の実施
- 監査委員による財務監査の実施
- 区議会による事業・予算のチェック
- 第三者による組織評価の実施

（注2）5委員会：低炭素社会づくり委員会、循環型社会づくり委員会、自然共生社会づくり委員会、環境教育・人材育成委員会、もったいない運動推進委員会

Ⅳ 新中期計画の実現に向けて

(2)円滑な事業の推進



協働・連携の強化

- 行政との連携を深め、効果を高めた事業の展開
- 民間・他団体などとの交流や連携による事業の展開
- 大学との連携事業やインターンシップの受入れ制度の検討
- 大型商業施設とのタイアップ事業の実施

特色ある事業の展開

- SDGsの実現に向け、エネルギー、気候変動、循環型社会、生物多様性など時代に適応した事業の実施
- 江戸川区の地域特性である自然環境を守り、生かした事業の実施
- 次世代育成の視点を持った事業の実施



SDGs
「持続可能な
開発目標」
17の目標

出典) 国際連合広報センターHP

会員拡大

- 若い世代向けにSNSを活用した事業展開
- 江戸川総合人生大学との連携による社会貢献活動の実施
- エコセンター認知度を高めるグッズの作成
- J:comやFMエドがわなどメディアとのタイアップ事業
- 魅力ある事業と会員登録によるメリットのPR

Ⅳ 新中期計画の実現に向けて

(3)情報発信の充実



ホームページ(SNS)

- イベントや講習会などのよりタイムリーな掲載
- 各事業における報告書の掲載
- 環境学習紹介ページの内容を充実させ、学校関係者への出前授業などの情報提供の拡大
- ブログやfacebookを活用し、実施事業やイベント出展情報の充実
- 外国語表記への対応

情報紙

- 年4回発行の「エコちゃんねる」の内容の充実



各種パンフレット

- エコセンター紹介やもったいない運動パンフレットの内容の充実
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた外国語表記への対応
- 環境教育出前授業パンフレットの内容の充実

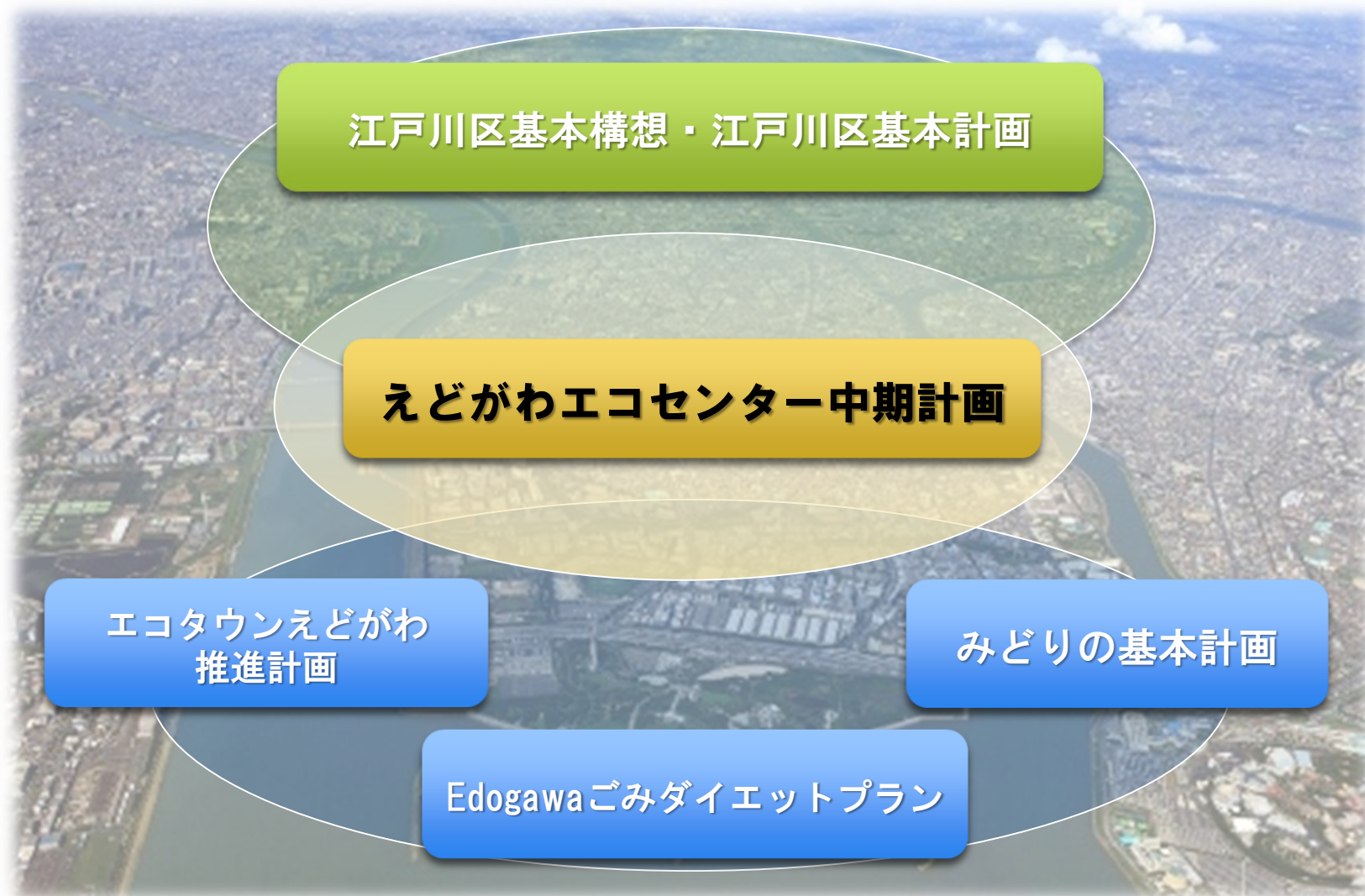




資料編

V 資料編

(1) えどがわエコセンター中期計画と区計画の関係



V 資料編

(1)えどがわエコセンター中期計画と区計画の関係



基本構想・基本計画

- 基本構想は、江戸川区の将来都市像と基本目標を示したもの（2020年頃の目指すべき将来像）
- 基本計画は、基本構想を実現するための施策や事業計画の道筋を示したもの
（後期計画期間 平成24年度～平成33年度）

エコタウンえどがわ推進計画

- 温暖化対策推進法に基づき、地域をあげて地球温暖化対策を進めるため、温室効果ガスの削減に向け具体的な取り組みを示したもの（平成30年度改訂）

Edogawaごみダイエツトプラン

- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、ごみ減量やリサイクルをより推進し、循環型都市を目指すための具体的な取り組みを示したもの（第3期計画期間 平成28年度～平成33年度）

みどりの基本計画

- 都市緑地法に基づき、水、緑ともに生きる豊かな暮らしを実現するために、緑のまちづくり全般の方策を示したもの（平成25年策定）

V 資料編

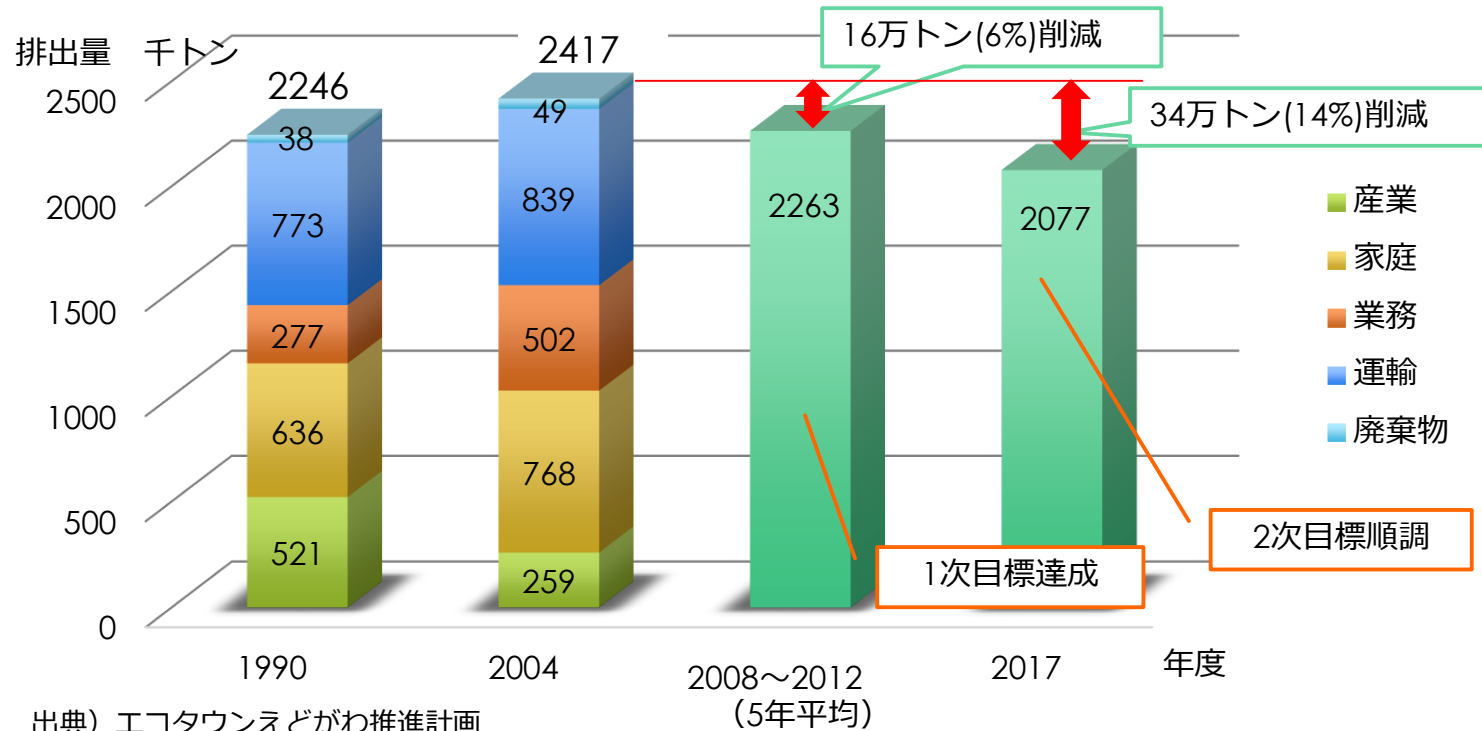
(2) エコタウンえどがわ推進計画



エコタウンえどがわ推進計画では、第1次目標である2008年度から2012年度までの5年間で、エネルギー起源二酸化炭素を平均して年間16万トン（2004年度比6%）削減することを達成している。

第2次目標に向けては、2014年度までに、2004年度比10.5%、255千トンの二酸化炭素を削減しており、順調に削減を維持している。

江戸川区のCO2削減目標



V 資料編

(3)第2次エコタウンえどがわ推進計画の目標①



V 資料編

(3)第2次エコタウンえどがわ推進計画の目標②



温室効果ガス排出量の削減目標（2013 年度比）

2030 年度までに 40%削減

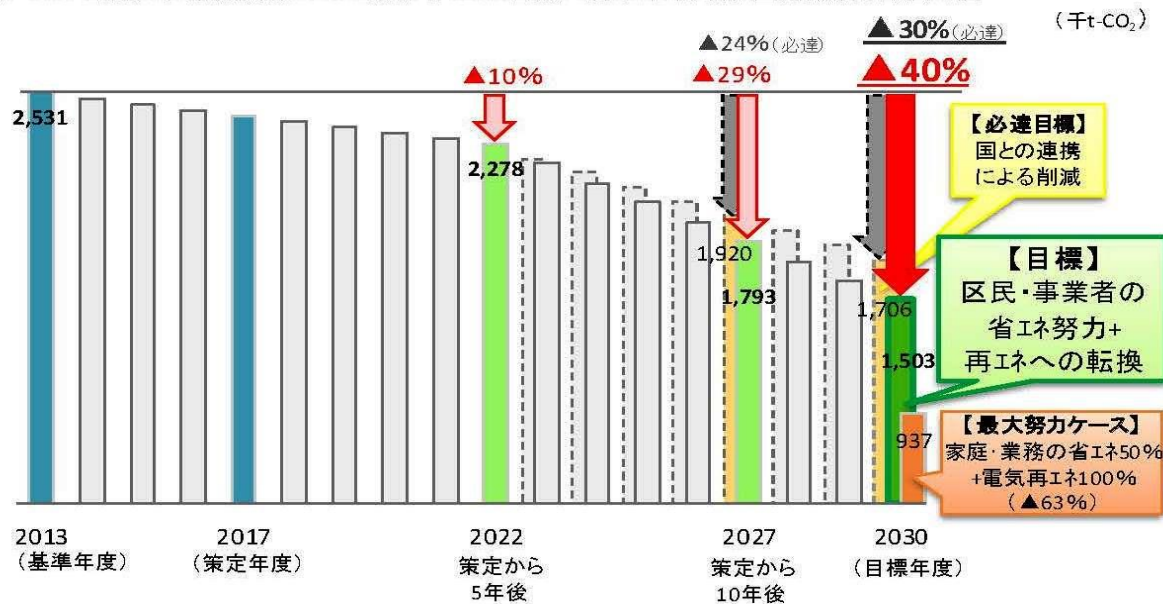
【必達】2030 年度までに 30%削減

2022 年度までの削減目安：10%※1

2027 年度までの削減目安：29%、24%（必達）※2

※1 2022 年度までの削減目標：政府の「地球温暖化対策計画」の「2020 年度の削減量」に基づく

※2 2027 年度までの削減目標：2022 年度から 2030 年度まで毎年均等に排出量を削減した場合の値



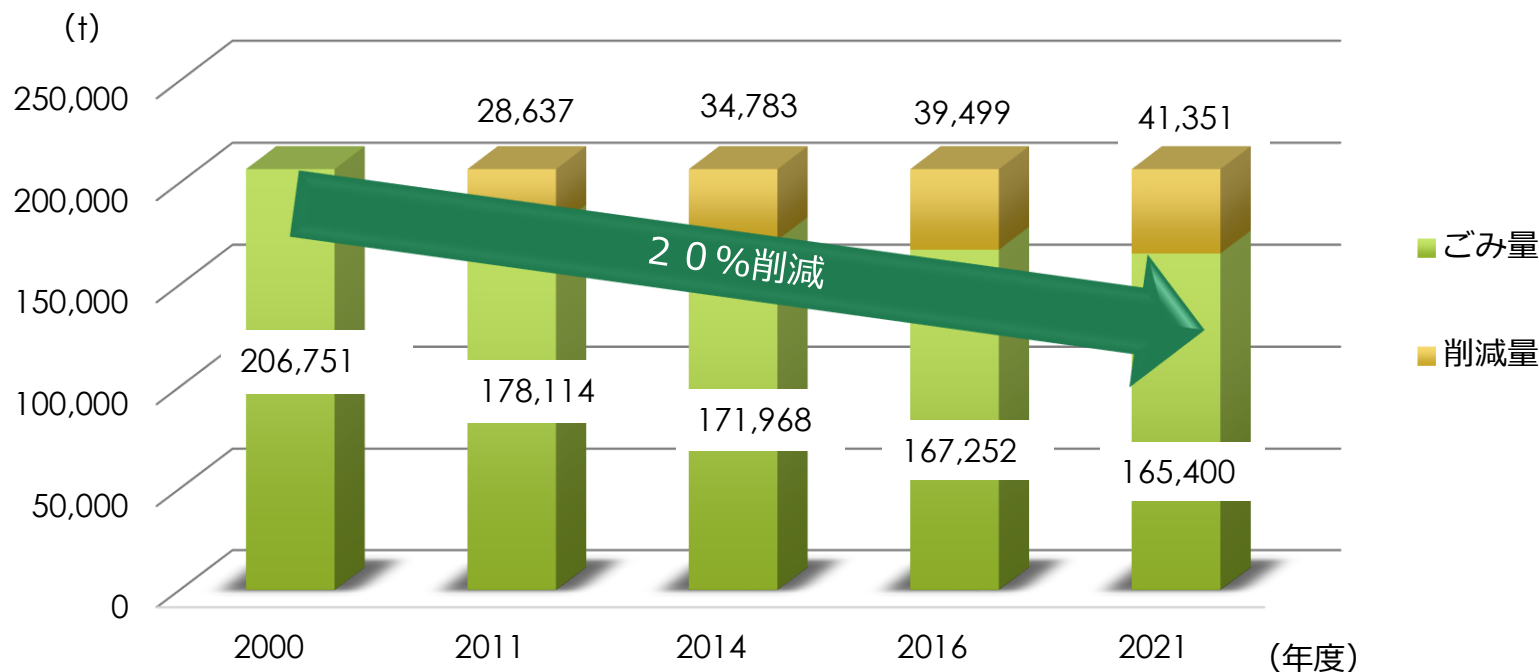
V 資料編

(4)Edogawaごみダイエットプラン



ごみダイエットプランでは、目標ごみ量を2021年度に2000年度比で20%の削減を目指している。昨年度2016年度までに、39,499トン、約19%の削減を達成している。今後、20%削減を達成すると、2021年度にはごみ量が165,400トンとなる。

目標ごみ量



出典) Edogawaごみダイエットプラン

V 資料編

(5)地球温暖化の動向①

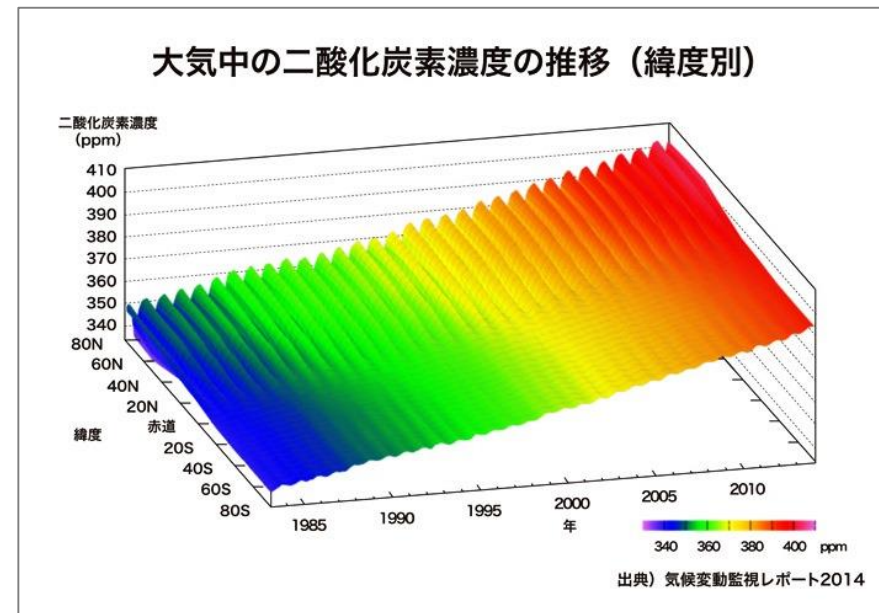


国際気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次報告書

全国地球温暖化防止活動推進センター（JGCCA）より

《地球温暖化の原因》

- 人間活動が20世紀半ば以降に観測された温暖化の支配的な要因であった可能性が極めて高い。（可能性95%以上）
- 温室効果ガス別の地球温暖化への寄与は、二酸化炭素が76.7%で最大の温暖化の原因と言える。
- 二酸化炭素濃度は、産業革命前1750年の280ppmから2013年には400ppmを超え、実に40%以上も増加しており、大気中の二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は、過去80万年間で前例のない水準まで増加している。



出典) 気候変動監視レポート2014

V 資料編

(5)地球温暖化の動向②

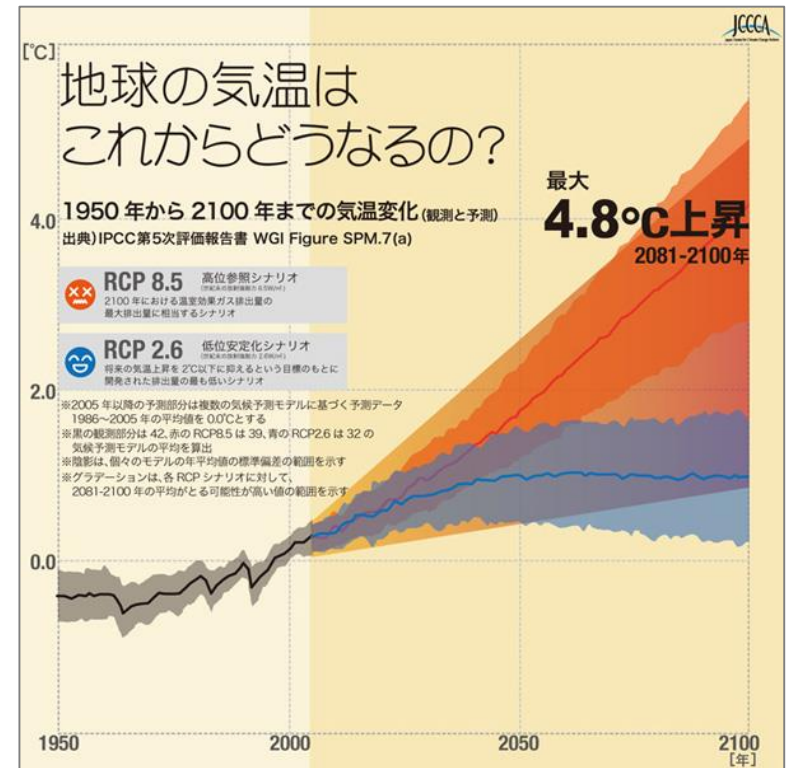


国際気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次報告書
全国地球温暖化防止活動推進センター（JGCCA）より

《現状・将来予測》

気温

- 1880～2012年において世界平均地上気温は、 0.85°C 上昇
- 最近30年の各10年間の世界平均地上気温は、1850年以降のどの10年間よりも高温である。
- 今世紀末までの世界平均地上気温の変化予測は、 $0.3\sim 4.8^{\circ}\text{C}$ である可能性が高い。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センター
(JGCCA) ホームページ

V 資料編

(5)地球温暖化の動向③

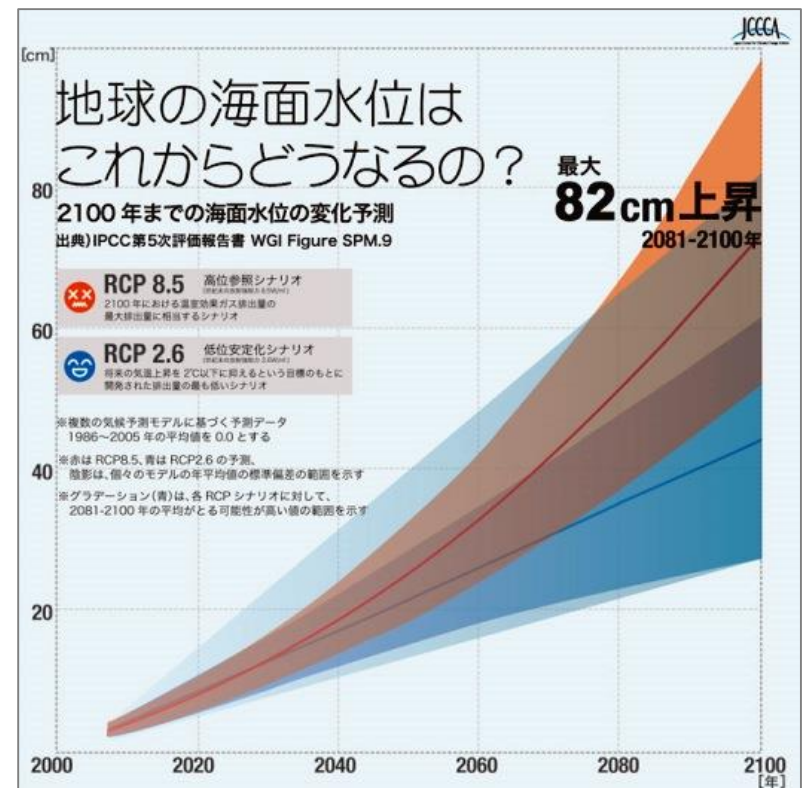


国際気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次報告書
全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）より

《現状・将来予測》

海面水位

- 1901～2010年の期間中、世界平均海面水位は、0.19m上昇した。
- 今世紀末までの世界平均海面水位の上昇予測は、0.26～0.82mである可能性が高い。



出典) 全国地球温暖化防止活動推進センター
(JCCCA) ホームページ

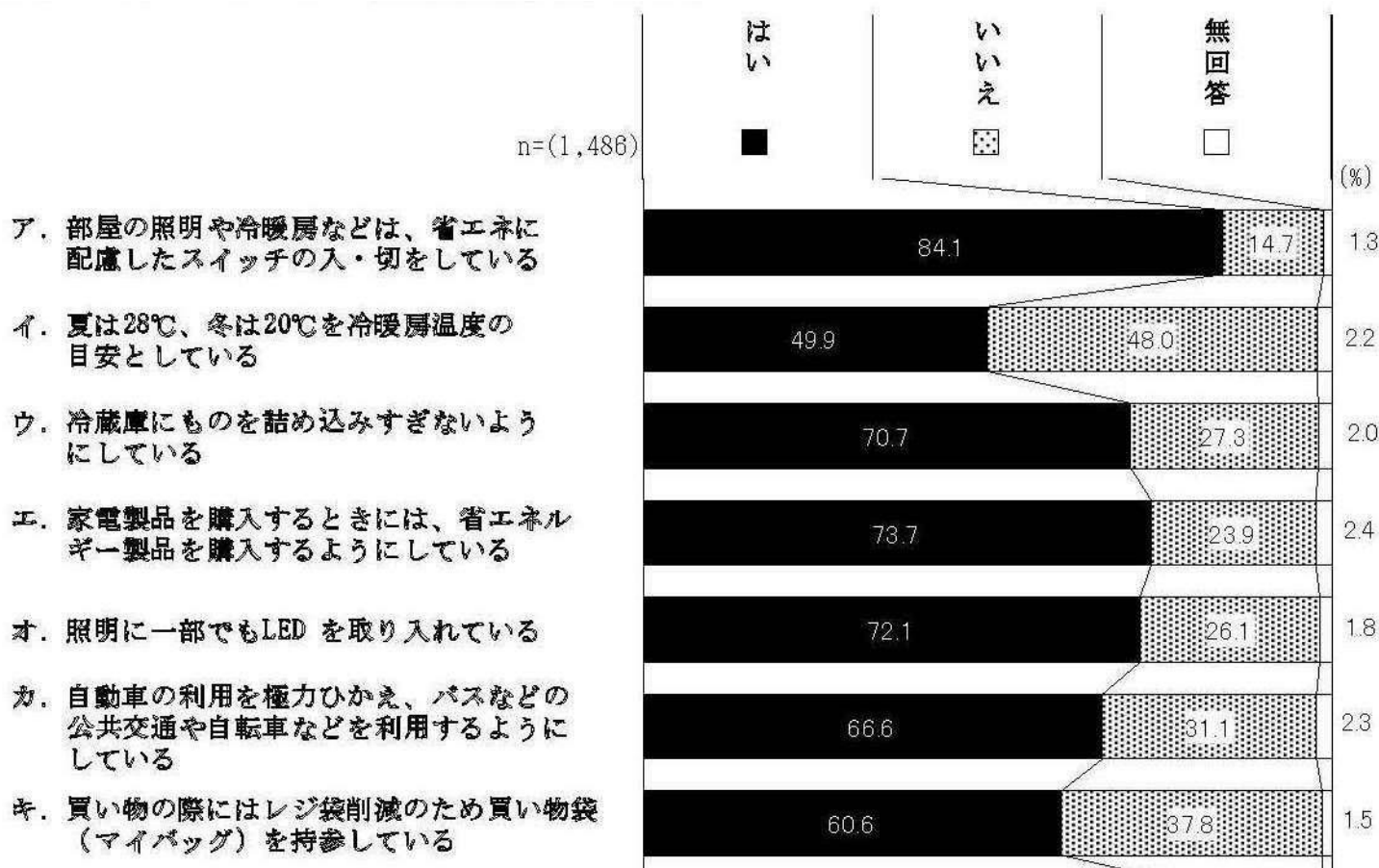
V 資料編

(6)区民世論調査 抜粋



環境に配慮した行動について

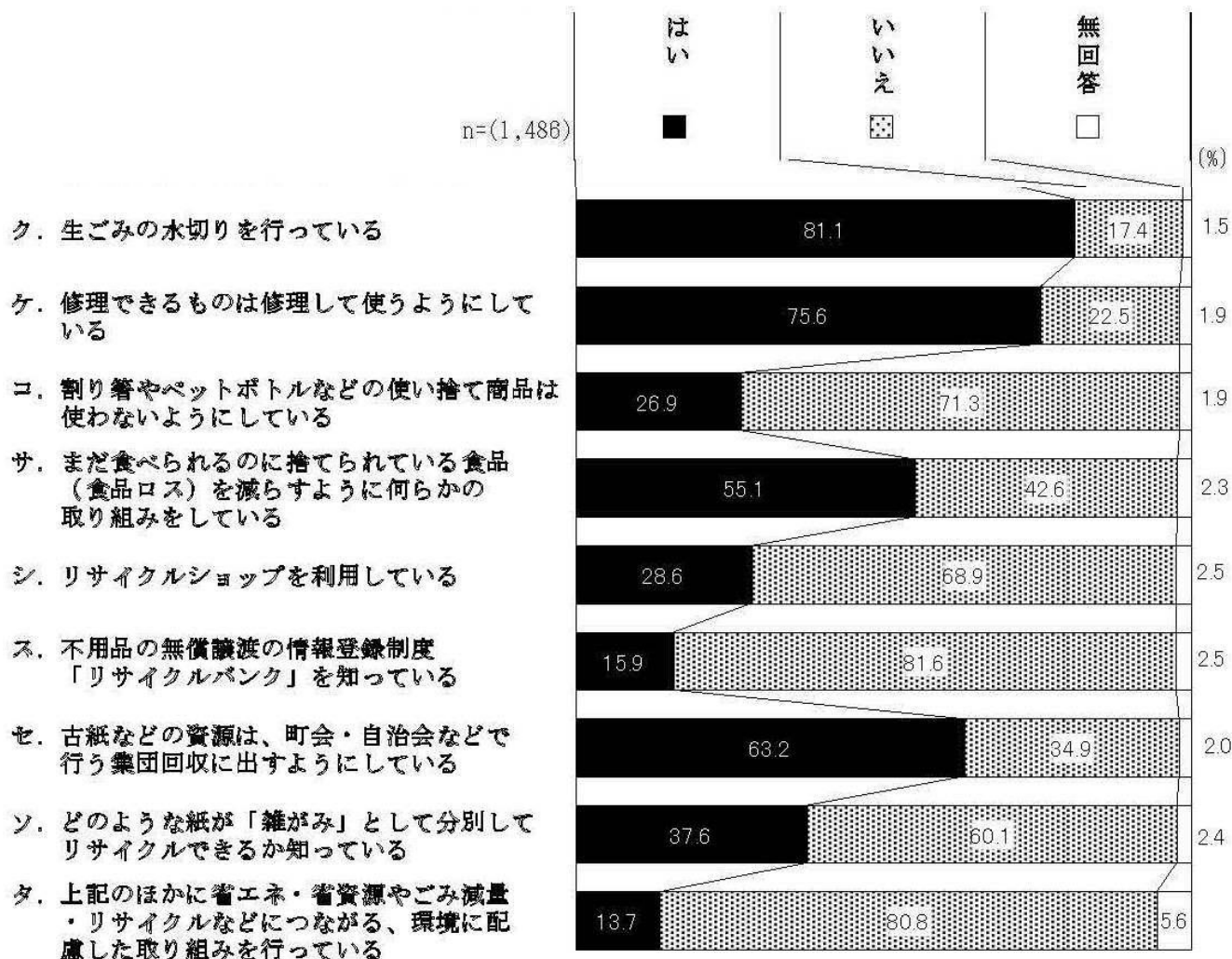
えどがわエコセンターでは、江戸川区と協力して「もったいない運動」に取り組んでいます。区民世論調査の結果によると、何らかの省エネ・省資源を意識した行動を約8割の区民が実践しています。



出典) 平成29年度江戸川区民世論調査
 (図表10-1) 省エネ・省資源を意識した行動

V 資料編

(6)区民世論調査 抜粋



V 資料編

(7)江戸川区の人口推計



注) 2010年までの人口は国勢調査実績値。2015年以降は江戸川区推計(コホート要因法による。基準人口は2010年、推計区間は5年。)

出典) 江戸川区人口ビジョン

V 資料編

(8)策定委員会



【えどがわエコセンター中期計画策定委員会 委員名簿】

役職名	氏 名
会長	岡島 成行
理事長	◎小林 豊
副理事長	○中嶋 美南子
理事	荒木 初美
理事	岩瀬 耕二
理事	岡田 憲治
理事	齋藤 智子
理事	佐藤 正兵
理事	佐藤 正史

役職名	氏 名
理事	末吉 潤一
理事	中山 雄司
理事	深津 郁子
理事	水上 泰輔
理事	大和地 弘一
理事	山本 敏彦
公募委員	寺本 孝行
公募委員	橋爪 周治

※◎座長、○副座長

※橋爪委員は、第2回をもって退任

V 資料編

(8)策定経過



【策定経過】

会議	日時・場所	事項
第1回	2017年 8月1日(火) 18:30～ 策定委員会	・策定委員会委嘱 ・座長、副座長の選任 ・今後の進め方について
第2回	9月12日(火) 18:30～ 策定委員会	・「事業分析ワークシート」を基に、現状把握・課題等の確認作業 ・重点施策、中期計画骨子等についての検討
第3回	10月17日(火) 18:30～ 策定委員会	・新中期計画「素案1」の検討
第4回	12月12日(火) 18:30～ 策定委員会	・新中期計画「素案2」の検討
第5回	2018年 2月13日(火) 18:30～ 策定委員会	・えどがわエコセンター中期計画「最終案」の検討

V 資料編

(9)用語説明



用 語	説 明
ESD [Education for Sustainable Development]	「持続可能な開発のための教育」と訳されています。環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題の解決につなげ、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。
SDGs [Sustainable Development Goals]	「持続可能な開発目標」と訳されています。国連で2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として採択された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず、先進国も自ら取り組む普遍的な目標であり、日本としても積極的に取り組んでいます。
PDCA	「Plan＝計画」「Do＝実行」「Check＝評価」「Action＝改善」の頭文字をとってPDCAといいます。プロジェクトを流れで捉え、評価を次の計画に生かしてより高いレベルへと進めていく考え方です。
ウォームシェア	冬の寒い時期に、家族がひとつの部屋に集まったり、家庭の暖房を止めて暖かく楽しく過ごせる場所に出かけることで、あたたかい場所をシェア（共有）し、エネルギー消費を減らす取り組みです。
エネルギー起源二酸化炭素	石炭や石油などの化石燃料の燃焼から作られたエネルギーを、産業や家庭で利用・消費することによって生じる二酸化炭素のことです。
温室効果ガス	地表面の温度及び気温を保つ効果を持つ気体のことをいいます。温室効果ガスには、二酸化炭素（CO ₂ ）、メタン（CH ₄ ）、一酸化窒素（N ₂ O）などがあります。
カーボンオフセット	日常生活や経済活動において避けることができない温室効果ガスの排出について、できるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、排出されてしまう温室効果ガスについてはその排出量を見積り、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資し、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。
クールシェア	夏の暑い時期に、一人一台のエアコンをやめ、家庭や地域の涼しい場所をみんなでシェア（共有）することや、自然が多い涼しいところへ行くことでエネルギーの消費を減らす取り組みです。
クールチョイス	2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標を達成するため、日本が世界に誇る省エネルギー・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択（クールチョイス）」を促す国民運動です。

V 資料編

(9)用語説明



用 語	説 明
国際気候変動に関する政府間パネル (IPCC) [Intergovernmental Panel on Climate Change]	1988年に発足し、気候変動に関する最新の科学的知見をとりまとめて評価し、各国政府にアドバイスとコンサルティングを行うことを目的とした政府間機構です。第5次評価報告書では、産業革命以降、温室効果ガスが40%以上増加し、世界平均気温も0.85℃上昇していることが明らかにされました。
コーディネーター	物事が円滑に行われるように、全体の調整や進行を担当する人のことです。
食品ロス	食べられるのに廃棄されてしまう食品のことをいいます。日本では年間、2775万トンの食品が廃棄されています。食品ロスを削減し食品廃棄物の発生を減らしていくことが重要です。
生物多様性	あらゆる生物種の多様さ、生態系や自然環境などが豊かでありバランスのとれた状態であることを表した概念です。
フードドライブ	家庭で余っている食品を学校や職場などに持ち寄り、それらを必要とする福祉団体や施設などに寄付する活動です。食品ロスの削減や未利用食品の有効活用を目的としています。
プランナー	企画や計画を立てる人のことです。
マイクロプラスチック	大きさが5ミリメートル以下の微細なプラスチック粒子のことをいいます。。主に海洋を漂流する間に細かく砕けたプラスチックゴミで、表面に有害物質が付着しやすく、魚などが体内に取り込むと生態系に影響を及ぼすおそれがあります。
ラムサール条約	1971年にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約です。正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。
ウィズユース	「賢明な利用」という意味で、ラムサール条約で提唱された考え方です。湿地の生態系を維持しながら、人類の利益のためにも湿地を持続的に利用していくことです。
3R（スリーアール）	Reduce（リデュース＝ごみを出さない）、Reuse（リユース＝再使用する）、Recycle（リサイクル＝再使用する）の頭文字をとって3Rといいます。廃棄物をできるだけ出さない社会をつくるための基本的な考え方です。

